

【報告】

母性・小児・地域看護領域の合同授業の試み（第5報）

黒野 智子 埴田奈津子 宮谷 恵 入江 晶子 小出扶美子

聖隷クリストファー大学看護学部

The Challenge of Combined Maternity Nursing and Child Nursing and Community Health Nursing Class : The fifth report

Tomoko KURONO, Natsuko TADA, Megumi MIYATANI, Shoko IRIE, Fumiko KOIDE

Department of Nursing, Seirei Christopher College

抄 録

本学の3年次生を対象に、異なる看護学領域の関連性の認識と知識の統合を図るために、母性・小児・地域看護領域の合同授業を平成13年度より試みている。今年度は前年度までに残された課題を踏まえて、わかりやすい授業内容の工夫としてさらに、「授業内容のスリム化」を図り、特に3領域の情報が混乱しないように媒体を工夫するなどの改善をおこなった。その結果、3領域の関連性の認識と知識の統合・定着において有効性が示唆され、学生の『混乱・わかりにくさ』を防ぐのに効果があったと考えられる。

キーワード：合同授業 領域間の知識の統合
母性・小児・地域看護学 育児支援 児童虐待

I. はじめに

我々は平成13年度より、学生に領域の異なる看護学の関連性の認識と知識の統合を図るため、母性・小児・地域の3領域での合同授業を試みている。平成13年・14年度では、学生のこれら3領域の関連性の認識は、授業の前後で有意差が認められ、新しく試みた授業の有効性が示唆されたが、母子の保健・医療・福祉の知識については統計的に有意差が見られず、原因として授業内容の濃厚さが考えられた¹⁾²⁾。そこで、平成15・16年度は授業内容を厳選して減らし、事例や質問紙などの媒体の工夫を行って合同授業を実施し、その結果3領域の関連性の認識と知識の統合・定着において有効性が示唆されたものの、学生の感想として「混乱した」という否定的感想や「資料への不満」について述べられていた³⁾⁴⁾。

今年度は、配布資料の工夫と授業内容を更にスリム化し、わかりやすい授業の工夫を試みた。また今回は、2002年度に改定されたカリキュラムで学修する最後の学年であり、次の一学年150人体制で、どのような内容の授業が母性・小児・地域の看護領域で効果的に合同授業を実施できるのかも含めて検討した。

II. 合同授業について

1. これまでの取り組みの課題と今回の工夫点およびその実際

1) 昨年度(平成16年度)の取り組みの課題

昨年度は、「3領域の関連性を認識すること」はもちろんのこと、平成15年度の合同授業の感想から課題として残った「授業内容のスリム化」と「学生自身が多様な情報の中から必要な事柄を選択・統合し、自らの知識につなげる力の向

上」そして「授業内容の知識の理解と定着」に取り組むことを目標に

- ①授業内の情報量のスリム化を図る。
- ②「正常経過をたどる乳児(幼児)と母親の支援」について実施した2コマを2段階に分け、1段階として母性・小児の関連を明らかにし、授業時間を変えて2段階目に母性・小児の連携を復習しつつその内容に地域領域がどのように関連しているかを講義。
- ③1回目の合同授業で得た知識を確実にするために、授業内容のイメージを再現しやすいような媒体の工夫。
- ④多様な情報の中から必要な事柄を選択・統合し、自らの知識にできるような働きかけとして、合同授業で取り上げる事例を正常な経過の母子2事例(A, B)に増やし、2事例が関連付けて対比し易い資料を作成。
- ⑤合同授業実施前に各領域で実施していたテーマに関する授業内容を想起させるようなロールプレイや媒体を使用。
- ⑥母子保健医療福祉サービスに関する法律や特に重要なポイントを繰り返し強調して説明するなどの工夫を試みた。

その結果、各領域の関連性の認識について学生の母性・小児・地域看護領域の関連性への認識は高まり、知識の定着に関しても実施直後と1週間後について、実施前と比較して有意差が認められた。しかし、『混乱・わかりにくかった』『教材についての不満』などの否定的な感想があげられた。『混乱・わかりにくかった』という感想については、平成15年度と同様、授業内容についても厳選し必要最低限の情報にまとめ、同じ時間内に詰め込むことのないように配慮し、学習内容も複数回に分けて繰り返し実施したが、約3割の学生は、それでも授業内容が早く情報

量も多いと感じていた。

平成17年度への課題として、

- ①多様な情報の中から必要な事柄を選択・統合し自らの知識にできるような働きかけについては、『混乱・わかりにくかった』という感想を踏まえて、まず授業内容をさらに、スリム化してわかりやすく工夫することを優先する。
- ②授業内容を「一般的な母子の医療・保健サービス」（資料1）を用いて、今どの部分の内容を講義しているかを進行状況に従ってその都度説明を行ない、授業担当が変わる場面で学生が授業内容を整理し気持ちを切り替える工夫をして混乱を防ぐ。
- ③「児童虐待」の授業については、内容を吟味して取り組む必要がある。
- ④教材についての工夫として、形式を可能な範囲で3領域で統一化するとともに、基本となる資料については領域ごとに異なった色をつけるなどして、数多くの資料を学生が見分けやすくする工夫をおこなう。

などが挙げた。

2) 今回（平成17年度）の合同授業の実際

今回の合同授業のテーマは、昨年度と同様「正常な経過をたどっている乳児と母親への支援」と最近社会問題として頻繁に取り上げられている「児童虐待」の2つに絞った。

合同授業は、3年次秋セメスターに開講される母性看護方法論Ⅲの最終2コマにあたる11月9日（2時限目）、16日（2時限目）、の2コマで実施した。今年度は母性看護方法論の授業進捗の関係上、実施時間数が3コマから2コマに減少した。

今年度、2コマの合同授業を実施するにあたり、前年度の課題を踏まえて、3つの領域の教員間で以下の取り決めを行った。

- ①配布する資料についてはA4版の用紙とし、3領域に共通する資料については白色、母性看護領域が黄色、小児看護領域がピンク、地域看護領域が水色の用紙を用いる。配布資料は、わかりやすくかつ最小限にする。
- ②各領域の教員が講義をする際、配布資料に使用した色のエプロンをつけて、授業担当が変わる場面で学生が配布資料と関連づけて授業内容を整理し、気持ちを切り替える工夫をおこなう。

第1回目の合同授業では、「正常な経過をたどっている乳児と母親への支援」をテーマに、合同授業前の母性看護方法論ⅡおよびⅢの授業で妊娠・分娩・産褥経過を紹介し授業にも参加して頂いた母子1組に再度登場してもらい、「一般的な母子の医療・保健サービス」（資料1）のイベントに沿って講義を展開した。配布した資料およびパワーポイントの資料は、合同授業前に母性看護方法論、小児看護方法論の中で使用して学生になじみのあるスライドも含めて構成した。また、今回授業に参加していただいた母子に関する詳細な資料は作成せず、母子保健医療福祉サービスに関連する法律に関するものを含む知識として覚えておいて欲しい事柄のみとし、共通資料1枚、母性領域1枚、小児領域1枚、地域領域2枚の計5枚のみとした。また、わかりやすい内容の工夫として、母子健康手帳の交付の場面では前年度同様、合同授業前の地域看護演習で実際に学生が行ったロールプレイを想起できるように、地域看護領域の教員が保健師として妊婦役の教員を相手に具体的な対応を演じて見せた。

第2回目の合同授業は、「児童虐待」について、母性、小児、地域看護領域の教員が、それぞれの視点で授業を行った。母性看護領域では、1回目の合同授業で使用した内容と対応させて、

「一般的な母子の保健・医療・福祉サービス」(資料1)のそれぞれのイベントに虐待予防のポイントを書き加えて資料を作成し解説した。小児看護領域では法律の解説を含め、小児看護領域で虐待を発見しフォローアップするための看護者の役割を中心に、病院内で組織的に対応するモデルの紹介などを行った。地域看護領域は健診場面のビデオを使用し、予防の視点から具体的な母子の関わりの中での地域看護の特徴を講義内容とした。

Ⅲ. 研究方法

1. 対象

本学の平成17年度の3年次生で母性看護方法論Ⅲの履修生97名。そのうち、男子学生は5名、女子学生は92名であった。この中には、出産・育児経験がある学生が1名含まれていた。

2. 調査方法

合同授業初日の授業開始前(以下1回目とする)、2回目の合同授業終了直後(以下2回目とする)、および2回目の合同授業実施より10日後(以下3回目とする)の計3回にわたり、対象の学生に質問紙調査を実施した。各調査日も20分程度の記述時間を確保した。

1) 調査内容

以下の項目について質問紙調査を行なった。

(1) 母性・小児・地域看護学の関連性の認識：

今までの授業を通して学生が感じている母性・小児・地域看護学領域の関連性の認識の程度を Visual Analog Scale で記入してもらった。

(2) 関連性を認識した授業内容や場面：

1回目の調査では、母性・小児・地域看護学

の関連性を認識した合同授業前までの授業や演習内容や場面、2回目の調査では今回の合同授業で関連性を認識した内容や場面、3回目の調査では、合同授業前までの授業や演習内容や場面と合同授業で関連性を認識した内容や場面について自由記載方法で記述してもらった。

(3) 経時的な母子の保健・医療・福祉サービスの理解：

妊娠期、産褥入院期、育児期のそれぞれの時期に行われている具体的な看護援助や健康教育などの育児支援について、欄外に記載した選択肢の中から正解を選ぶ方式とした。配点は一問1点で12点満点とした。

(4) 母子の保健・医療・福祉サービスの法律理解：

妊娠期、産褥期、育児期のそれぞれの時期に関わる法律の名称について、考えられる限りを列挙してもらい、正しい名称の解答について1点加点し、総計を算出した。

(5) 合同授業についての感想：

第2回目と第3回目の調査で、合同授業の感想を自由記載方法で記述してもらった。

2) 調査期間

1回目：第1回目の合同授業実施日の平成17年11月9日に母性看護方法論Ⅲ(合同授業)の授業開始直前に実施

2回目：平成17年年11月16日の第2回目合同授業終了直後で母性看護方法論Ⅲの授業時間内に実施

3回目：第2回目の合同授業を実施した10日後の平成17年11月26日、3年次生が全員参加する臨地・臨床実習オリエンテーション時に実施

3) 倫理的配慮

質問紙は無記名とし、学生には研究の主旨を文書と口頭で説明し、成績に関係しないことを約束した上で教員が退席した後に調査票に記載し、回収箱に入れてもらった。

3. 分析方法

1) 母性・小児・地域看護領域の関連性の認識：

(以下関連性の認識とする)

調査ごとにVisual Analog Scaleを計測し、それぞれの記述統計量を算出した。1回目と2回目の平均値の差を、対応のあるt検定により有意差の検定を行った。

2) 経時的な母子の保健・医療・福祉サービスの理解：

妊娠期、産褥期、育児期のそれぞれの時期に行われている具体的な看護援助や健康教育などの育児支援についての学生の記載内容を、正しいものを1個1点で点数化してそれぞれの記述統計量を算出した。1回目と2回目の平均値の差を、対応のあるt検定により有意差の検定を行った。

3) 母子の保健・医療・福祉サービスの法律理解：

妊娠期、産褥期、育児期のそれぞれの時期に関わる法律の名称についての学生の記載内容を、正しいものを1個1点で点数化してそれぞれの記述統計量を算出し、1回目と2回目の平均値

の差を、対応のあるt検定により有意差の検定を行った。

尚、統計的なデータ分析にあたっては、統計パッケージSPSS13.0JAdvanced Modelsを使用した。

4) 関連性を認識した授業内容や場面：

1回目・2回目・3回目の質問紙に自由記載で記述してもらった、合同授業前と授業後の母性・小児・地域看護の関連性を認識した授業内容や授業場面についての記述内容を分類・集計し分析した。

5) 合同授業後の感想：

2回目・3回目の質問紙に自由記載で記述してもらった、合同授業についての感想の記述内容を分類・集計し分析した。

IV. 調査結果

1. 回収率

質問紙の回収数と回収率は、1回目56例57.7%、2回目40例41.2%、3回目18例18.6%であった。

平成17度は、3回目の回収率が18.6%と極端に悪かったため、1回目の56例と2回目40例を量的な分析の対象とした。

表1 記述統計量

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
1回目「関連性の認識」	54.0	3.8	10.0	8.1	1.5
1回目「保健・医療・福祉サービスの理解」	56.0	0.0	12.0	6.5	3.7
1回目「保健・医療・福祉サービスの法律理解」	56.0	0.0	4.0	0.7	1.0
2回目「関連性の認識」	39.0	2.0	10.0	8.9	1.6
2回目「保健・医療・福祉サービス」の理解	40.0	0.0	12.0	9.1	4.0
2回目「保健・医療・福祉サービスの法律理解」	40.0	0.0	4.0	1.3	1.5

2. 記述統計量

1) 関連性の認識

Visual Analog Scale 計測値の平均は、1 回目 8.0、2 回目 8.9、であった。(表 1 参照)

2) 経時的な母子の保健・医療・福祉サービスの理解について

妊娠期、産褥期、育児期のそれぞれの時期に行われている具体的な看護援助や健康教育などの育児支援についての学生の記載内容の平均得点は、1 回目 6.5 (±3.7)、2 回目 9.1 (±4.0) であった。(表 1 参照)

3) 母子の保健・医療・福祉サービスの法律理解:

妊娠期、産褥期、育児期のそれぞれの時期に関わる法律の名称についての得点は、1 回目 0.7 (±1.0)、2 回目 1.3 (±1.5) であった。(表 1 参照)

4) 関連性を認識した授業内容や場面について

関連性を認識した授業内容や場面についての総回答数は、1 回目が 88、2 回目が 52、3 回目が 26 であった。(すべて重複回答可であった)

1 回目の調査で最も多かった内容は、地域看護領域での『乳児家庭訪問演習』で 32 例 (36%) であった。次いで、『それぞれの領域の授業内容』が 30 例 (34%)、『小児・母性での技術演習 (乳児の観察、沐浴、計測など)』を挙げたものが、14 例 (15.9%) であった。(表 2 参照)

表 2 合同授業前に看護領域が関連すると思った場面

乳児家庭訪問演習でのロールプレイ	32
授業の内容	30
小児・母性での技術演習 (乳児の観察、計測、沐浴)	14
共通したあるいは連続した対象や援助	12
同じ人形を使用	2
法律が共通する	1

(n = 88、複数回答あり)

2 回目の調査でも、『合同授業内容』の記述が最も多く 10 例 (19.2%) であった。次いで多かつ

たのは、『乳児家庭訪問演習』9 例 (17.3%) で、他の合同授業の中で取り上げた『児童虐待』、『関連する法律』『健康診査』などの内容やロールプレイを行った『母子手帳の交付』の記述をあわせると 33 例 (63.5%) であった。(表 3 参照)

表 3 合同授業直後に看護領域が関連すると思った場面

合同授業	10
乳児家庭訪問演習でのロールプレイ	9
授業内容	8
児童虐待	7
小児・母性での技術演習 (乳児の観察、計測、沐浴)	5
共通したあるいは連続した対象や援助	5
健康診査	4
関連する法律	2
母子健康手帳の交付	1
その他	1

(n = 50、複数回答あり)

3 回目の調査では、「母性、小児、母性はすべての事が関連している」など『授業内容』に関する記述が 8 例 (30.8%) と最も多く、次いで『関連する法律』4 例 (15.4%)、『合同授業』3 例 (11.5%) であった。『児童虐待』、『関連する法律』『健康診査』など合同授業の中で具体的に挙げたりロールプレイを行った『乳児家庭訪問演習』と記述したものをあわせると 13 例 (50%) であった。(表 4 参照)

表 4 合同授業の10日後に看護領域が関連すると思った場面

授業内容	8
関連する法律	4
合同授業	3
乳児家庭訪問演習でのロールプレイ	3
小児・母性での技術演習 (乳児の観察、計測、沐浴)	3
共通したあるいは連続した対象や援助	2
健康診査	2
児童虐待	1

(n = 26、複数回答あり)

5) 合同授業後の感想

2回目・3回目の質問紙に合同授業の感想を自由に記載してもらった。記述があった質問紙は、それぞれ2回目24例、3回目5例であった。

2回目の合同授業の感想についてみると、24例のうち合同授業に関して肯定的な意見は22例(92%)であった。具体的には、「一つの課題について、母性、小児、地域側からの対応を知ることが出来てわかりやすかった」「一緒に時間に同じテーマで講義があるととてもわかりやすい」など『合同授業の効果』についての記述や、「虐待に関してはとても勉強になった」「ビデオで健診の時に保健師の計測や医師の診療介助をしながら虐待がないかどうか観察しているのを見て勉強になった」などの『合同授業のテーマ(虐待)が良かった』と言う記述がみられた。また、資料については「色紙を使った資料がわかりやすかった」「パワーポイントが効果的に使われていた」などの『資料が工夫されていた』との記述があった。その他、『他の領域でも実施すればよい』などの記述も見られた。

また、否定的な意見としては、「1人の教員の持ち時間が少なく忙しそうだった」という記述が2例あった。(表5参照)

表5 合同授業実施直後の感想(自由記載)

〈肯定的意見〉	
合同授業の効果	15
合同授業のテーマ(虐待)が良かった	4
資料が工夫されていた	2
他の領域でも実施すればよい	3
〈否定的意見〉	
1人の教員の持ち時間が少なく忙しそうだった	2

(n = 24、複数回答あり)

3回目の肯定的感想としては、「関連づけて授業してくれるとわかりやすい」や「各領域のアプローチの仕方があるとわかった」など『合同

授業の効果について』の記述や「資料の工夫として今までの授業で使った資料を基にして授業をしたのでわかりやすかった」という『資料の工夫』の記述が1例あった。また、否定的な意見としては「地域の配布資料がもう少しわかりやすいものだと助かる」という『資料についての不満』が1例あった。(表6参照)

表6 合同授業の10日後の感想(自由記載)

〈肯定的意見〉	
合同授業の効果	2
資料の工夫	1
〈否定的意見〉	
地域の配布資料がもう少しわかりやすいものだと助かる	1

(n = 4)

3. 1回目と2回目の比較結果

1) 関連性の認識：

1回目と2回目の Visual Analog Scale 計測値の平均値について、対応のある t 検定実施した。この結果、1回目と2回目の平均値には、5%水準以下で有意差が認められ (t 値 = -2.158、 $p < 0.05$)、合同授業の前後で関連性の認識に違いがあった。

2) 経時的な母子の保健・医療・福祉サービスの理解：

学生の記載内容の平均得点(12点満点)について、対応のある t 検定実施した。この結果、1回目と2回目の平均値には、1%水準以下で有意差が認められ (t 値 = -3.681、 $p < 0.01$)、合同授業の前後で制度についての知識の深まりが見られた。

3) 母子の保健・医療・福祉サービスの法律理解：

学生の記載内容について、対応のある t 検定実施した。この結果、1回目と2回目の平均値

には、5%水準以下で有意差が認められ (t 値 = -2.68, $p < 0.05$)、合同授業の前後で制度についての知識の深まりが見られた。

V. 考 察

我々は平成13年度より継続して母性・小児・地域看護領域の連携を図り、合同授業を実施してきた。平成17年度は、「3領域の関連性を認識すること」はもちろんのこと、平成15年度よりの懸案事項であった「授業内容のスリム化」、「担当者交代時の混乱を防ぐ」こと及び「教材の工夫」を中心に取り組んだ。

その結果、各領域の関連性の認識についての変化を測定する Visual Analog Scale の結果から、合同授業を実施したことにより、学生の母性・小児・地域看護領域の関連性への認識は高まったと言える。学生がその関連性をどこで感じたかをみたところ、平成16年度同様、合同授業の内容と記載したものが最も多かった。合同授業が学生に対しては、とても印象深かったと考えられる。

平成17年度の合同授業の課題の一つは、「授業内容のスリム化」にあった。これは、平成16年度の合同授業に対する否定的感想の中で、最も多かった『混乱・わかりにくかった』という感想を踏まえ改善を図ったものであった。今年度、事例を1例に絞って、「正常な経過をたどっている乳児と母親への支援」と児童虐待にテーマを限定し、授業内容のスリム化を実践した。この結果、合同授業実施後の感想には、『混乱・わかりにくかった』という感想は見られなかった。平成16年度の学生の感想の中で、3割が、「情報量も多く、授業進度も早い」と訴えていたが、これもまた、今年度は見られなかった。このことより、今回実施した、「授業内容のスリム化」は、

学生のわかりにくさや混乱を防ぐのに効果があったと考えられる。しかし、合同授業の時間数が、昨年度までは、3時間あったが、今年度は2時間に減少した。この結果、学生の感想の中に、「(教員の)一人の持ち時間が少ない」という記述が見られた。今後、「スリム化」とともに授業時間の検討が必要であると思われた。

「担当者交代時の混乱を防ぐ」という課題の遂行のために、担当者の色を決め、配布資料と関連づけた。さらに、授業の進行時常に、「経時的な母子の保健・医療・福祉サービス」の資料に立ち返り、取り上げている項目の全体内容の位置づけを確認できるように工夫した。この試みの結果、学生の感想からは、『混乱・わかりにくかった』がなくなり、「わかりやすかった」という感想につながったと思われる。「教材の工夫」では、なじみのある形式・枚数の制限・教材の色・効果的なビデオ・パワーポイントの活用を行った。この結果、「資料が工夫されていた」という意見が見られた。しかし、この反面「配布資料への不満」も見られたが、昨年度よりは減少していた。このことより、「教材の工夫」については、一定の成果が示唆されたが、今後のいっそうの工夫が必要と思われる。

平成17年度の合同授業の今後の課題としては、前述の教材の工夫とともに、「正常な経過をたどっている乳児と母親への支援」と「児童虐待」の二つのテーマに対しての授業時間数の検討が求められている。さらに、本学看護学部の最重要課題として、1学年150人体制の中で効果的な教育方法の考案が望まれている。その第1歩として、演習を3領域合同で実施することなどが考えられる。

最後に、今年度の反省点として回収率が低下があり、特に3回目は著しく悪かった。この原因は、今回明らかにすることはできなかったが、

次年度に向け、合同授業の方法・質問紙の改善および、平成13年度からの経年的な調査結果の検討が必要と考えられる。

引用・参考文献

1) 黒野智子、冨田奈津子、宮谷恵、入江晶子 (2003)：「母性・小児・地域看護領域の合同授業の試み」(第2報)、『聖隷クリストファー大学紀要』11：101-109.

2) 黒野智子、冨田奈津子、宮谷恵、入江晶子 (2002)：「母性・小児・地域看護領域の合同授業の試み」(第1報)、『聖隷クリストファー看護大学紀要』10：149-155.

3) 冨田奈津子、黒野智子、宮谷恵、入江晶子 (2004)：「母性・小児・地域看護領域の合同授業の試み」(第3報)、『聖隷クリストファー大学紀要』12：175-186.

4) 冨田奈津子、黒野智子、宮谷恵、入江晶子 (2005)：「母性・小児・地域看護領域の合同

授業の試み」(第4報)、『聖隷クリストファー大学紀要』13：67-80.

5) 田島桂子、澤田秀一、高崎旦子、安孫子誠也、鈴木恵理子 (1997)：「新教育課程編成の意図とその展開」、『聖隷クリストファー看護大学紀要』5：135-144.

6) 亀井智子、久代和加子 (2001)：「看護基礎教育統合型カリキュラムにおける老年看護学教育体系の開発と形成的評価」、『聖路加看護大学紀要』27：42-51

7) 藤本栄子、黒野智子、谷口通英 (1997)：「妊婦理解のための授業の工夫」、『聖隷クリストファー看護大学紀要』5：51-66.

8) 城島哲子、仲村秀子、中野照代、藤生君江、入江晶子、鈴木知代 (2000)：「地域看護学における「地区活動演習」の評価」—記述的地区把握から仮説検証型調査への転換を通して—『聖隷クリストファー看護大学紀要』8：121-131.

資料1 一般的な母子の保健・医療・福祉サービス

	妊 娠	出 産	一 ヶ 月	二 ヶ 月	三 ヶ 月	四 ヶ 月 ～ 七 ヶ 月	七 ヶ 月 ～ 十 ヶ 月	十 ヶ 月 ～ 一 歳	一 歳 ～ 一 歳 半
施設									
母性看護領域	・妊産婦健康診査(公費で一般健康診査を二回受けられる。)	・入院中・褥婦・新生児の観察、授乳援助(授乳指導、乳房マッサージ)、産褥体操	・1ヶ月健診(子宮の復古状態など)						
小児看護領域	・出産準備クラス(母親学級や両親学級など)	・育児指導、沐浴指導退院後の生活指導など ・育児支援(母乳外来、電話相談など)	・育児支援(母乳外来、電話相談など)⇒⇒						
地域看護領域	・妊娠の届出 ・母子手帳の交付 ・出産準備クラス(母親学級や両親学級など) ・(妊婦訪問)	・出生届の提出 ・家庭訪問 ・育児相談事業⇒⇒	・先天性代謝異常検査(ガスリー法)など	・1ヶ月健診(発育・発達健診・育児相談など)	・3～4ヶ月健診 ・予防接種(個別接種：三種混合など)	・7ヶ月健診	・10ヶ月健診		・1歳半健診
主な関係法規	☆労働基準法・男女雇用機会均等法・育児介護等の休業法・母子保健法・児童福祉法☆								